

## 第12回 奈良まほろばソムリエ検定試験

# 問題用紙

## 奈良まほろばソムリエ

(午後2時開始 制限時間90分)

### 注意事項

1. マークシートへの記入にあたっては、硬度HBまたは、Bの黒鉛筆を使用してください。(ボールペンは使用不可)
2. 誤ってマークしたときは、跡の残らないようにプラスチック消しゴムで消してください。
3. マークシートの解答欄は、各問題につき1つのみ解答してください。
4. マークシートは直接コンピュータで読み取りますので、絶対に折り曲げたり汚したりしないでください。
5. 記述式問題の解答用紙への記入にあたっては、解答用紙の表面に記載されている注意事項をよく読んでください。
6. 記述式問題の解答用紙にも受験番号・氏名の記入欄がありますので必ず記入してください。
7. 点数は100点をもって満点とし、問Ⅰが50点(25問で各2点)、問Ⅱが30点(2問で各15点)、問Ⅲが20点(1問で20点)の配点となります。

(平成30年1月7日)

奈良商工会議所

I. 次の問題について、最も適当なものを選びなさい。

(1) 『古事記』や『万葉集』にその名が見え、松尾芭蕉が訪れたといわれる川上村の滝はどれか。

- ア. 鶯の滝                      イ. 蜻蛉の滝                      ウ. 明神滝                      エ. 堂倉の滝

(2) 大台ヶ原遊歩道のルート上にない名所はどれか。

- ア. 正木ヶ原                      イ. 大蛇窟                      ウ. 菊の窟                      エ. シオカラ谷

(3) 昭和41年(1966)に「奈良県の鳥」に指定されたのはどれか。

- ア. オオルリ                      イ. アオゲラ                      ウ. カワセミ                      エ. コマドリ

(4) 天平12年(740)に起こった藤原広嗣の乱を避けるため、聖武天皇が伊勢国に行幸した際、第一日目に宿泊した都祁の頓宮(行宮)はどれか。

- ア. 竹原井頓宮                      イ. 堀越頓宮                      ウ. 不破頓宮                      エ. 横川頓宮

(5) 戦国時代に勢力を張った国人の越智氏が本拠地を置いたのは現在のどの市町か。

- ア. 奈良市                      イ. 大和郡山市                      ウ. 高取町                      エ. 広陵町

(6) 奈良県内の神社にも甚大な影響をもたらした神社合祀の勅令が発令されたのはいつか。

- ア. 文久2年(1862)                      イ. 明治元年(1868)                      ウ. 明治39年(1906)                      エ. 昭和15年(1940)

(7) 昭和60年(1985)に富本銭が発掘調査によって発見された井戸の跡はどの公園内にあるか。

- ア. 九条公園(大和郡山市)                      イ. 櫛本高塚公園(天理市)  
ウ. 馬見丘陵公園(河合町・広陵町)                      エ. 鳥見山公園(宇陀市)

(8) 後醍醐天皇が葬られた吉野山の陵はどれか。

- ア. 塔尾陵                      イ. 埴口丘陵                      ウ. 宇智陵                      エ. 笠間山陵

(9) 奈良県立明日香養護学校の校舎建て替え工事に伴う発掘調査で、敷石・貼石・板石積が検出された大型方墳はどれか。

- ア. 塚本古墳                      イ. 段ノ塚古墳                      ウ. 都塚古墳                      エ. 小山田古墳

(10) 広陵町にある「竹取物語ゆかりの神社」とも称されるのはどれか。

- ア. 櫛玉比女命神社    イ. 小北稻荷神社    ウ. 讃岐神社    エ. 廣瀬神社

(11) 法隆寺東院を再興した道詮が建立したと伝える寺はどれか。

- ア. 富貴寺    イ. 楽田寺    ウ. 光林寺    エ. 秦楽寺

(12) 金峯山寺は慶長 19 年(1614)、徳川家康の命によって天台宗の支配に入ったが、この時、本寺の学頭となり、蔵王堂にその肖像がまつられるのは誰か。

- ア. 隆光    イ. 天海    ウ. 実利    エ. 崇伝

(13) 江戸時代に再建された東大寺大仏殿の屋根を支える巨大な構造材を運搬するようすを伝える「大仏殿虹梁木曳図」を描いたのは誰か。

- ア. 琳賢    イ. 狩野山楽    ウ. 岡田(冷泉)為恭    エ. 明誉古礪

(14) 平成 29 年(2017)に平城宮跡出土木簡 3184 点、東大寺山古墳出土品一括とともに新たに国宝に指定されたのはどれか。

- ア. 安倍文殊院の文殊五尊像    イ. 法華寺の維摩居士像  
ウ. 西大寺の興正菩薩(叡尊)像    エ. 円成寺の大日如来像

(15) 霊山寺三重塔の初層には極彩色の壁画が残っているが、これを描いたと伝えられるのは誰か。

- ア. 尊智    イ. 明兆    ウ. 詫磨栄賀    エ. 巨勢金岡

(16) 松尾芭蕉が鑑真和上を偲んだ句「若葉して 御めの雫 ぬぐはばや」が収められた書はどれか。

- ア. 『笈の小文』    イ. 『野ざらし紀行』    ウ. 『奥の細道』    エ. 『更科紀行』

(17) 対立する名門貴族の男女の悲恋を描き、「日本版ロメオとジュリエット」と呼ばれる奈良を舞台とした人形浄瑠璃はどれか。

- ア. 『妹背山婦女庭訓』    イ. 『義経千本桜』    ウ. 『壺坂靈験記』    エ. 『心中天網島』

(18) 奈良県内の仏像も紹介している『見仏記』は、イラストレーターのみうらじゅんと誰の共著か。

- ア. 百田尚樹            イ. 村上龍            ウ. いとうせいこう            エ. 又吉直樹

(19) 「奈良県伝統的工芸品」として指定されているのはどれか。

- ア. 奈良表具            イ. 奈良漆器            ウ. 高山茶釜            エ. 奈良一刀彫

(20) 奈良漬は、糸屋宗仙が白瓜を酒粕に漬けてつくって本格化したともいわれるが、糸屋宗仙の本業はどれか。

- ア. 製菓業            イ. 茶道家            ウ. 造り酒屋            エ. 漢方医

(21) 次の能楽流派のうち、春日大社と興福寺の「薪御能」に参加していないのはどれか。

- ア. 金剛            イ. 観世            ウ. 喜多            エ. 宝生

(22) 東大寺二月堂修二会についての記述のうち、正しいのはどれか。

- ア. 実忠和尚が岩船寺の龍穴で行を会得して始まった。  
イ. 試別火は戒壇院の別火坊で行われる。  
ウ. 練行衆が読み上げる過去帳に「赤衣の女人」という謎の人物がいる。  
エ. 達陀は3月12日から14日にかけて行われる水の行である。

(23) 世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産である平城宮跡で、西面築地の門跡はどれか。

- ア. 若犬養門跡            イ. 壬生門跡            ウ. 建部門跡            エ. 玉手門跡

(24) 平成23年(2011)に国の重要文化的景観に指定された「奥飛鳥の文化的景観」の区域に含まれないものはどれか。

- ア. 南淵請安墓            イ. 飛鳥川上坐宇須多伎比売命神社  
ウ. ミロク石            エ. 飛鳥川の飛び石

(25) 平成29年(2017)にリニューアルオープンした奈良市観光センターの愛称はどれか。

- ア. ナラベル            イ. ナラニクル            ウ. ナラコッチ            エ. ナラニカム

Ⅱ. 次の中からテーマを2つ選び、それぞれについての解説文を別紙の解答欄に200字以内で書きなさい。尚、選択したテーマの番号を解答欄左上の所定欄に記入すること。

(各15点)

(1) 大和川について

(2) 馬見古墳群について

(3) 多聞城について

(4) 室生寺について

(5) 大峯奥駈道について



Ⅲ. 次の中から1つ選び、その場所を含む1日の見学コースを想定したのち、同伴者を楽しませ、奈良の文化遺産や自然遺産に興味をもたせるには、どのように案内すればよいかを考え、自分なりの見学計画を400字以内で書きなさい。

尚、選択した番号を解答欄左上の所定欄に記入すること。また、行程ならびに本文の記述にあたっては、下記の条件を参照すること。

(20点)

(1) 法華寺 (奈良市)

(2) 往馬大社 (生駒市)

(3) 當麻寺 (葛城市)

(4) 今井町 (橿原市)

(5) 飛鳥川 (明日香村・橿原市)

**【記述の条件】**

- ・ 主な見学地を訪れる順番にそって行程を設定し、枠内に記入しなさい。  
なお、行程は〔○○○～○○○～○○○…〕という書き方で列記すること。
- ・ 見学地の数は自由とします。
- ・ 見学の集合・解散場所(鉄道の駅や路線バス乗り場など)を想定する必要がありますが、行程の欄や本文の中にあえて入れる必要はありません。
- ・ 見学地間の移動手段は徒歩を基本としますが、路線バス・鉄道・自動車などを利用しても構いません。

